

No.2182



# 教育ルネサンス

## 学びの格差 2

# 学ぶ育む

## NPOが「放課後教室」

「自分が思う以上に周りは勉強している」

昨年6月、千葉県松戸市の市立中学校1年生だった男子生徒(13)は1学期の期末テストの結果にショックを受けた。

小学校時代の成績は「中程度」と感じていたが、期末テ

ストでは各教科の得点が学年平均を20点ほど下回り、合計

得点は120位。下から数えた方が早かった。級友の大半は週2回程度、学習塾に通っていたが、男子生徒の家庭は経済状況が苦しく、月2万3万円の塾代を工面することができなかった。



放課後無料教室では、一人ひとりの子どもに応じた個別指導が行われている(9月下旬、千葉県松戸市)

父親の勤務先の会社が6年前に倒産した後、専業主婦だった母親はパート勤めなどをしている。「家で子どもの勉強をみてやれなかった。学校は宿題が少ないし、補習の回数も限られていて、塾に通うことが前提になっているように感じた」と母親は言う。

男子生徒はテニス部に所属し、遠征費や用具代の支払いに苦勞して、親戚からもらっ

た小遣いで何とか間に合わせたこともあった。「授業はわからなくなるし、学校が嫌で仕方なかった」と振り返った。高校は定時に進み、家計を助けるために働こうとも思ったが、昨秋、NPO法人などによる放課後無料教室があると母親から聞き、通い始めてから考えが変わった。

無料教室は、生活保護や就学援助などを受ける小学5年生と中学3年生を対象に週2回程度、高校教員や会社員、大学生らのボランティアが2時間半の個別指導を行う。男子生徒は、苦手な英語も少しずつ理解できるようになり、中学2年の1学期の期末テストは80位に。大学進学を見据えて高校を志すという意欲が出てきたという。

だが、市から委託を受けて無料教室を運営しているNPO法人「子どもの環境を守る会Jワールド」によると、高

校受験の数が月前になって通い始める生徒が少なくない。アルファベットが十分に書けないケースもあり、「支援が遅くなるほど高校進学は難しくなる」と市の担当者は語る。中学生だけでなく、高校生への支援も課題だという。

国の2014年度の調査では、高校生全体の中退率は1・5%だが、生活保護世帯の生徒に限れば3倍の4・5%に上った。同法人副理事長の清澤さちえさん(70)は「無料教室は学力を上げるだけでなく、様々な大人との出会いの場になる。進路の参考にするためにも、より幅広い世代に参加の機会を与えるべきだ」と訴える。

同法人は企業や個人の寄付金などを受け、独自の事業として高校生も無料教室で受け入れているが、全国的には、小中学生を対象とするところが大半だという。